



中国・台湾・サイパン・シンガポールの神社跡地報告

稲宮 康人

(非文字資料研究センター 研究協力者)

はじめに

2015年秋から2016年春にかけて行った神社跡地調査について報告する。今回は中国、台湾、サイパン、テニアン、シンガポールに行った。これらを比較することで、神社跡地の現状が地域によって大きく異なっていることがわかるだろう。

中国の神社跡地

華北の神社跡地

2015年9月18日～27日にかけて、華北の神社跡地調査・撮影を行った。河北省邯鄲・張家口・承德と、山西省太原で調査・撮影を行った。

邯鄲大東亜神社跡地

河北省の邯鄲市にあった神社。現在神社跡地の一帯は晋冀魯豫⁽¹⁾ 烈士陵園となっており(資料1)、その中の陳列館が邯鄲大東亜神社跡地である(写真1)。説明板には大東亜神社だったと記されている(写真A)。陳列館の建物が、神社の建物を修復して使っているのか、神社の基壇だけ利用しているのかは、不明である。

邯鄲大東亜神社の初代宮司を務めた杉田忠朗の回想記『海外神社の思い出』に神社創建に関する文章がある。以下に要旨を載せる。

邯鄲大東亜神社は、河北・河南省の18県を氏子区

域とし、各県に神社を造り、その総社を邯鄲に造る予定であった。氏子総代となる各県知事は「大東亜神社」を要望したが、北支海外神社の神職を統括していた北京大使館の決定により地名を加え「邯鄲大東亜神社」となった。海外神社の主管省は大東亜省であった。祭神に両国の神を祭ることになり、中国側の祭神を天帝とするよう各県知事から強い要請があったが、北支大國魂神が祭神になった。内地の官幣社に準じて創立。鎮座祭の時には、両国の要人を狙った八路軍の攻撃があった。

海外神社をめぐる当時の情勢をかいま見ることができる。

蒙疆神社跡地

現在の内蒙古自治区西部を主領域とする蒙古連合自治政府の首都・察哈爾(現・河北)省張家口市にあった神社。当初は町の鎮守である張家口神社として建設を始めたが⁽²⁾、建設中に張家口で飛行機の墜落に巻き込まれ死亡した北白川宮永久親王を祭神に迎えることになり、蒙疆地区の総鎮守たる蒙疆神社へと格上げたのではないかと推測している。永久親王の祖父は、台湾で死亡し台湾特有の祭神となった北白川宮能久親王である。神社跡地は勝利公園となっている。屋根部分が撤去されているが神社建物は残っており、周辺の土地と併せて簡易遊園地として使われている(写真2,3)。拝殿内部は、幼児が玩具の車に乗る遊技場になっていた(写真B)。



写真1 邯鄲大東亜神社跡地。陳列館。



資料1 邯鄲地図「戦友思い出集『邯鄲の夢』」
邯鄲山吹会



写真A 陳列館。説明板。



写真2 疆神社跡地。拝殿だった建物。



写真3 蒙疆神社跡地。本殿だった建物。



写真B 拝殿内部。

また、本殿内部には資材やゴミが置かれていた。勝利公園の隣は察哈爾烈士陵园になっており、蒙疆忠霊塔⁽³⁾を改造したと思われる革命烈士紀念塔がある(写真C)。

太原神社跡地

太原神社は山西省の省都・太原市にあった。大東門(宣春門)のすぐ近くである(資料3)。1937(昭和12)年、日本軍が侵攻・進駐したことで居留邦人が激増し、1938(昭和13)年に太原神社御造営委員会が成立、1939(昭和14)年に天照大神と明治天皇を祭神にして太原神社が鎮座した。紀元二千六百年に際して神武天皇を合祀している⁽⁴⁾。1942(昭和17)年には神社外苑



資料3 太原地図「太原日本人営業別案内図」太原大日本居留民会



写真C 革命烈士紀念塔。



写真4 太原神社跡地。

にグラウンド⁽⁵⁾が作られ、戦時中には学徒出陣も行われた⁽⁶⁾。神社遺構はなにもない。再開発の際に道路が拡幅され、神社跡地は道路やビルになっている(写真4)。

承德神社跡地

関東軍は東北三省と熱河省を満州国の領域と決め、1933年の熱河侵攻によって省都・承德を占領した。承德は清の皇帝が夏を過ごす離宮避暑山荘や外八廟といわれる寺廟のある街である。占領後、安井曾太郎などによってそれらが「発見」され、多くの絵画が描かれた⁽⁷⁾。承德神社は一度遷座しているため、当初創建された場所(写真5)と、遷座後の場所(写真6)それぞれ調査を行った。共に遺構は残っていない。初代承德神社は、1934(昭和9)年に熱河省の総鎮守を創建すべく、武烈河を挟んで承德市街を見下ろす羅漢山の岩の上(当時は神居ヶ丘と呼んでいた)に建てられた(資料2)。しかし、神居ヶ丘は岩山で樹木が育たなかったため、1938(昭和13)年に承德忠霊塔に隣接する丘の上に仮遷座し、1941(昭和16)年に竣工したようである⁽⁸⁾。現在、忠霊塔は熱河革命烈士紀念館になっており、二代目承德神社はこの付近にあったと思われる。紀念館構内には忠霊塔の遺構が展示されている(写真D)。



資料2 承德地図「熱河承德市街地図」



写真5 初代承德神社跡地。中央の岩山の上に神社が建っていた。



写真6 二代目承德神社跡地。左は熱河革命烈士紀念館。紀念館右側に神社があった。



写真D 熱河革命烈士紀念館。忠靈塔説明板。

華南の神社跡地

2015年12月26日～2016年1月2日まで、福建省福州・厦門、広東省汕頭で調査・撮影を行った。全て2013年に調査済みである⁽⁹⁾。新たに判明したことを報告する。

汕頭神社跡地

汕頭市文化館裏手に残る狛犬の周りに、鉄製の柵が設置されていた(写真7)。前回の調査によって狛犬が日本の神社のものだということが判明し、現地の人に価値が「発見」されたことと、戦後70年という節目に日本の侵略が記念されたこと、などの理由で保存方法を変更したのではないかと推測している。

厦門神社跡地

跡地で新たな発見はなかったが、厦門神社創建について書いてある『新厦門』と『台湾居留民三十周年記念誌』を見つけた⁽¹⁰⁾。「在厦門居留民の守護神『厦門神社』建立は、(略)我が海軍、興亜院、台湾総督府、中国側市政府関係当局の絶大なる後援を得て」⁽¹¹⁾や、「厦門台湾居留民会は、(略)事変前の登録戸数は二千四百戸に上り、人口約1万と称されていたが、実数はより以上に上る筈である。」⁽¹²⁾という記述があり、なぜ大陸

の神社に台湾の守護神ともいえる北白川宮能久親王が祀られているのか⁽¹³⁾を解明する手掛かりになると考えている。

シンガポールの神社跡地

2015年7月16日～20日まで、シンガポールで昭南神社跡地の調査・撮影を行った。

昭南神社跡地

占領後大日本帝国は、シンガポールを昭南島と改名した。そしてマクリッチ貯水池に昭南神社を創建した。シンガポールを陥落させた山下奉文陸軍中将の発案である。官幣大社への列格や、南方全域の総鎮守にすることも考えられていた⁽¹⁴⁾。神社跡地はジャングルに埋もれている。池のほとりから本殿へと上る階段、手水鉢、石垣などが残っている(写真8,9)。また、貯水池をまたぐ神橋の橋桁が池の中に残っており、渇水期には橋桁が水面から出てくるようである(写真10)。昭南神社跡地は立入禁止区域の中にある。神社へと通じる道の入り口には立入禁止の標識があり、そこからジャングルの中の道なき道を1時間ほど歩かなければならない。にもかかわらず、撮影している間にあらたにやって来た人もいた。シンガポールでは、結構有名な場所のようであった。マ



写真7 汕頭神社跡地。狛犬。



写真8 昭南神社跡地。手水鉢。ビールや日本酒が置いてあった。



写真9 昭南神社跡地。階段。



写真10 昭南神社跡地。貯水池の向こう側が神社跡地。池の中には神橋の橋桁が残る。



写真11 彩帆香取神社。



写真F 壊れた摂社。

クリッチ貯水池に隣接するゴルフ場へと入っていく所には、昭南神社の説明板が立っている（写真E）。



写真E 昭南神社説明板。

サイパン・テニ안의神社跡地

2015年10月8日～12日までサイパン・テニアン両島で調査・撮影を行った。サイパン島の、彩帆香取神社・泉神社・南興神社、テニアン島の、住吉神社・和泉神社・NKK神社の6社である。2004年に全ての神社について詳細な調査が行われており⁽¹⁵⁾、それを基に調査・撮影を行った。前回調査から11年経ち、

変化が生じた跡地があった。また、新たな遺構が判明した跡地もあったので、併せて報告する。住吉神社・NKK神社は、前回調査と変化がなかったため、割愛する。

彩帆香取神社

2015年8月に台風13号がサイパン島を直撃し、甚大な被害が発生した。彩帆香取神社にも大きな被害があった。神社が建つ公園に生えていた木はほとんど倒れ、以前とは雰囲気が一変していた（写真11）。

神社施設にも大きな被害があり、摂社の建物が全壊し（写真F）、灯籠の笠が地面に落ちたりしていた。神社前の芝生広場には、サイパン平和記念碑に加え、大正大学戦没者慰霊碑が建てられていた。

泉神社跡地

泉神社跡地はジャングルの中に埋もれている。台風で倒れた木々が本殿跡を覆っていた（写真G）。鳥居は破損やひび割れでひどい状態だったが、未だに立っていた（写真12）。木が倒れる場所が違ってれば、この鳥居が倒れたかもしれない。灯籠は落ちてきた枝や葉などにあつく覆われ、確認が難しくなりつつある。



写真G 倒木に覆われた泉神社本殿基壇。



写真12 泉神社跡地。鳥居。



写真13 南興神社跡地。幾つかある灯籠の一つ。



写真 14 和泉神社跡地。神社本殿基壇跡に建つ
キリスト教の祠。



写真 15 和泉神社跡地。鳥居。2基の灯籠。鳥
居左に石柱。



資料 4 神道記念碑。

南興神社跡地

マウント・カーメル教会の墓地の中にある。本殿基壇の上にあったイエス像はなくなっていた。白く塗られた鳥居はそのままである。墓地を通る旧参道沿いに、灯籠の基礎、竿、笠などが幾つもあることを確認した(写真13)。

和泉神社跡地

本殿基壇跡に建てられたキリストの祭壇は、上に十字架を掲げた少し立派な建物になっていた(写真14)。また、鳥居が1基、崩れた灯籠が2基、鳥居の傍らに1本の石柱が残っていることを確認した(写真15)。

日之出神社跡地

DON A.FARREL『TENIAN -A BRIEF HISTORY-』(資料4)によって、前回調査時に日之出神社と推定していた施設は、米軍が建てた記念碑であったと確認できた。

台湾の神社跡地

2016年3月17日～23日にかけて、台湾東部を中心に跡地調査を行った。金子展也『台湾旧神社故地への旅案内ー台湾を護った神々』を基に、花蓮港神社、新城社、台東神社、鹿野神社、霧ヶ丘社の5社の調査・撮影を行った。花蓮港・台東については上記本の内容に

つけ加える発見はなかった。また霧ヶ丘社は既に調査報告がなされている。今回は、新城社跡地と鹿野神社について報告を行う。

新城社跡地

神社跡地はスイスの Grand St.Bernard 教団が建てた新城天主堂となっている。鳥居3基が改変され、門として使われている(写真16)。本殿基壇跡にはマリア像が建てられ(写真17)、入り口に置かれた1対の狛犬の台座にはそれぞれ聖母園・萬福源と刻まれている。また天主堂内では手水鉢が洗礼用として使われている。教会の歴史を写真で展示しており、その中には神社の写真も複数あった(写真H)。裏手には石像があり(写真I)、これも神社時代のものであると説明を受けた。また、神社の昔と今とを並べて描いた絵も展示していた(写真J)。



写真 H 1956年の新城社跡地の状態。



写真 16 新城社跡地。門として使われている鳥
居。



写真 17 新城社跡地。神社本殿基壇の上にマ
リア像が建てられている。



写真 I 石像。



写真 J 戦前と現代の新城社本殿を比べた絵。



写真 18 鹿野神社。左の建物が崑慈堂。



写真 19 鹿野神社。

鹿野神社

鹿野神社は台東県の鹿野郷龍田村にあった神社である。この村は台東製糖の募集に応じた日本人が住む移民村だった。日本人が引き揚げ時に祭神を持って帰ったため、現地の人々は、残された神社建物に土地公を祀った。その後、神社建物はなくなり、残った基壇の上に東屋が作られていたが、村や観光局が2015年10月に鳥居・社殿を復元した(写真18,19,K)。ただし、祭神は祀っていない。神社は媽祖などを祀った崑慈堂⁽¹⁶⁾の傍らに位置している。崑慈堂には地区の歴史を展示する龍田博物館も併設している。龍田は日本時代の建物などを生かした観光で売り出しており、この神社も観光名所となっている。撮影のため2時間程現地にいたが、観光客が途切れることなく訪れていた。

おわりに

今回の調査報告の中では、特に台湾で復元された鹿野神社が一番の驚きであった。台湾人による日本神社の復元を、「親日」だから、と言い切ることは無理があるが、他の国々の神社跡地への意識とは一線を画していることは間違いないだろう。また、既に調査された場所を再訪することで、その間に起きた変化を確認することができた。その変化をみることで、その国が神社跡地をどう位置付けているのか、より明瞭になったのではないだろうか。一つひとつ跡地の現況を確認していくことで、旧大東亜共栄圏と現在のアジアとの関係がみえてくるのではないだろうか。



写真 K 鹿野神社説明板。

【注】

- (1) 晋 = 山西省、冀 = 河北省、魯 = 山東省、豫 = 河南省。邯鄲はこれら4省の中央に位置する交通の要衝。共産党の抗日根拠地「晋冀魯豫辺区」に対応した烈士陵园。
- (2) 大阪朝日新聞北支版 1939(昭和14)年5月3日
- (3) 横山篤夫「日本軍が中国に建設した十三基の忠霊塔」
- (4) 『大陸神社大観』P507
- (5) 徳永智「日中戦争下の山西省太原都市計画事業」アジア経済 2013-6
- (6) 太原日本中学校同窓会『黄土燃ゆ 太中青春への回帰太原 日本中学校同窓会誌』
- (7) 稲賀繁美「白頭山・承德・ハルハ河畔：偽満洲国の文化象徴とその表象」豊田市美術館『近代の東アジアイメージ 日本近代美術はどうアジアを描いてきたか』
- (8) 岩下傳四郎『大陸神社大観』大陸神社連盟 P487
- (9) 渡邊奈津子「中国福建・広東省海外神社跡地を訪ねて - 汕頭神社、厦門神社、福州神社について -」『海外神社跡地から見た景観の持続と変容』神奈川大学非文字資料研究センター
- (10) 別所孝二『新厦門』は東京都立中央図書館蔵。『台湾居留民三十周年記念誌』は中央研究院台湾史研究所台湾研究古籍資料庫デジタル化史料。http://rarebooks.ith.sinica.edu.tw/sinicafrsFront99/index.htm
- (11) 前掲『新厦門』P25
- (12) 前掲『新厦門』P26
- (13) (9) 論文 P99
- (14) 大澤広嗣「昭南神社 - 創健から終焉まで -」『シンガポール都市論 アジア遊学 123』
- (15) 富井正憲、中島三千男、大坪潤子、サイモン・ジョン『旧南洋群島の海外神社跡地報告』
- (16) 花東縦谷国家風景区：崑慈堂 http://www.erv-nsa.gov.tw/user/Article.aspx?Lang=3&SNo=03000152